様式３－中

令和4年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第二中学校　第 1 学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題（年度末）
国語	・漢字の形を正確に捉えて、練習することが苦手な生徒が少なくない。 ・自分の考えを文章で表現する力が弱い。助詞の適切な使い方や文の組み立て方が身に付いていないためであると考えられる。 ・長文を読むことに抵抗感を持つ生徒が多い。	・毎授業の始めに7分程度の漢字の練習を帯活動として行う。小テストを一週間に一度行う。 ・新しい単元毎に語句に意味調べと共に、語彙を用いた短作文作りに取り組ませる。 ・文章になれるよう、説明文の単元では音読活動を行う。	・漢字練習の帯活動をしない期間における定期考査では漢字テストの達成率が著しく下がった。漢字学習と漢字を使う習慣づけが必要である。 ・語彙の誤用が目立った。短文の相互評価や交流の時間を確保する。 ・音読活動により、内容把握が高まった。継続する。
社会	・世の中で起っているニュースなどに興味・関心をまったく持っていない生徒が多い。 ・定期テストで「知識・理解」の内容の問題の出来は悪くないが、「思考・判断」を問う問題の正答率が低い。	・大きなニュースなどがある時には、授業の最初に取り上げ簡単に解説する。 ・授業の際に、「なぜ～なのか？」などの発問を増やしていき、生徒が考えていく場面を増やしていく。	・１年間の中で授業者が2回入れ替わり、３人の教員による指導が行われたため、授業パターンの定着をすることができず、理解力不足につながった。 ・話し合い活動を増やし、意欲的に話し合いに参加できる雰囲気が造られた。
数学	・簡単な計算は多くの生徒ができている。 ・分数、小数の計算に苦手意識があり、正答率が低い。 ・文章題など読解力を求められる問題が出題された際、どの様に取り組んでいいかが分からず、手が付けられない状況にある。	・毎授業の始めに3分間程度の計算練習、授業終わりに宿題の提示を行う。 ・定期考査や小テストに文章問題を出題し、解説など丁寧に行う。 ・文章問題を指導するときに話型を使いスモールステップで解けるように指導する。	・基礎・基本的な正負の数の計算、文字式の計算、1次方程式は多くの生徒が概ね習得している。 ・分数の計算においても改善が見られた。 ・文章題に関しては、問題の意図が読み取れず、手が止まる生徒が一定数いる状態である。2年次以降も話型を使用するなど丁寧な指導を心がける。
理科	○前時に行った基本単語の定着が不十分な生徒が居る。 ○生徒にとって未知の分野を、予想する際に「分からない」とさじを投げてしまう生徒が居る。 ○得られた実験結果に主観を入れない客観的な考察をすることに困難がある生徒が居る。	○授業の導入や導入後に、必ず前回の学習内容を確認し、反復学習を行っていく。単元ごとに、基礎基本を定着させるための練習問題に取り組む。 ○予想する際の発問を工夫し、意欲を持たせるとともに、予備知識を事前に用意し、適宜生徒に与えながら予想させる。 ○具体的な考察例を提示し、結果からどこまで判明するかのラインを毎回提示する。	○授業のスタート時に、前時の振り返りを行う帯活動は継続して実施できた。 ○課題解決型の授業を実施してきたが、授業進度と問題演習との兼ね合いを考える必要がある。 ○到達ラインを提示して、文章を作成できる生徒と、全く手が出せない生徒が居た。机間指導の充実が必要。
音楽	・コロナ感染拡大予防対策の影響で、リコーダーの演奏、合唱などの経験が薄い生徒が多く、出身小学校によって差が大きい。 ・鑑賞に関しては、興味を持って取り組んでいる。 ・知識は歌唱やリコーダー以上に学習差が大きい。	・リコーダーでは超入門編から指導を始める。また、ペア学習など形式を工夫する。また、リコーダー以外の楽器を体験させ興味を持たせる。 ・歌唱に関しては合唱コンクールを目標に、声の出し方、姿勢な1つ1つ指導していく。	・和楽器の体験授業を通じて、音楽による興味を持たせることができた。 ・歌唱分野でも合唱コンクールを節目に、意欲的に取りう組ませることができた。 ・リコーダーおよび鑑賞分野においては、苦手意識や自分の言葉での表現方法について、丁寧に指導していきたい。
美術	・基礎的な知識・技能の授業は集中して取り組める生徒の方が多い。 ・知識・技能を自分の作品（思考・判断・表現）に活かすことができる生徒、できない生徒の個人差が大きい。 ・振り返りが制作工程に対する進度の確認のみで完結し、自分の目標設定が曖昧な生徒や受動的な生徒が多い。	・知識・技能を作品に活かすことができるよう、応用の仕方がイメージできる授業計画をし、実践する。 ・毎回の振り返りを作品（思考・判断・表現）に活かすため、「何ができたか（制作工程）」だけでなく、「どのようにできたか（表現内容）」を振り返りと次回の目標に書くよう指導する。	・支援が必要な生徒を優先的に指導をしたり、授業中に生徒間で途中段階を鑑賞させて、活動を促すことができた。 ・振り返りと次回の目標を書かせることで、授業内に完成させる見通しが持てるようになった。振り返りを書く時間の確保と、表現方法の工夫についても考え、記録に残すことが課題。
保健体育	①授業規律を定着させる。 ②基礎体力や基本技能をしっかりと身に付ける。	・体育係の指示で集団行動ができ、まわりと合わせて活動すること、協働してお互いに高め合えるような授業展開を計画する。 ・始めに授業のめあて、目標の設定や積極的かつ適切な助言などを行っていく。 ・運動量を確保するためにも、また生徒主体の活動を確保するためにも、マネジメント（準備・移動・待機）の時間が少ない行動をし授業を行っていく。	・授業の始めや、安全指導など授業規律の定着をすることができた。生徒がお互いにアドバイスをしあえるような声かけをすると、生徒主体で活動することができた。 ・助言などを行ってきたが、理解力のところで工夫の余地があった。
技術・家庭	・日常生活の中で行われている家庭の仕事への関心が薄い生徒が多い。 ・日常生活の中で、まだまだ家族に頼っていることが多く、自分でできることや自分から取り組むことが少ない。特にものづくりの経験が少なく、基本的な技能の個人差が大きい。	・小学校との連携を図り、技能の定着を図る。 ・学習のねらいを明確にし、タブレットを活用したり、視覚教材を多く取り入れより具体的にわかりやすい授業を展開する。また、長期休業を利用して学習した内容を実践できるような課題を出す。	・新型コロナウィルス感染症防止対策を講じながらの授業であったが、作業などはおおむね実施できた。 ・技能面では個人差が大きく、授業内だけでの指導は厳しく、技術家庭科ともに放課後の指導も必要だった。 ・実技指導の際、タブレットを活用したことにより定着度が向上した。
外国語（英語）	小学校での外国語授業へ対する苦手意識がありながらも、真面目な取り組みができている。「書くこと」や「話すこと」に意欲的に取り組める生徒がいる一方で、丁寧な指導をしていかないと理解が難しい生徒も存在する。	放課後の補充教室等での活動も計画しながら、丁寧な指導を継続していく。デジタル教科書に移行して、「書くこと」の指導が課題であるので、毎時間の授業だけでなく、家庭学習での取り組みを進めていく。また、ALTと連携して、「発表する」意識を高められる指導を進めていく。	・英文・単語等の書く練習の対策として、「英語マラソン」を実施し、継続的な指導を実施。書くことへの習慣は身についた。 ・自分の意見を伝える力が身についていない事が大きな課題である。 普段から英語を話す習慣をつけさせる授業の展開が必要と考える。 ・真面目な取り組みができた。
道徳	・発問に対して、表面的な解答で終わることが多い。自分の身に置き換えて考えたり、さまざまな価値観の中から自分の考えを深く掘り下げさせるような授業展開にすることが難しい。 ・教師の発問に対して、答えるような形になっている。他者の考えからより深く考えさせることが難しい。4 ・グループで話し合わせても、そこで出た考えを発表して終わりになる。	・授業の導入の工夫をすることで、課題に対し自分のこととして考えさせる姿勢を持たせたい。 ・発問・補助発問を練り、深く考えさせる工夫をする。 ・グループを替えたり、役割演技などを取り入れることで新鮮な気持ちで考えられるようにする。	・授業の導入の工夫をすることで、課題に対し自分のこととして考えさせる姿勢を持たせることができた。 ・今より更に自分の考えを表現したり、他者に伝えられるようにすることが課題。
総合的な学習の時間	キャリア教育の一環として、まず過去から今までの自分を振り返り、自己理解を深めた。働く意味や仕事の種類などを班で話し合い、自分の興味のある職業について考えた。夏休みの宿題で、身近な人の職業調べとしてインタビューをすることで、自分の将来の生き方を考えるきっかけ作りができた。	身近な人の職業調べを発表することで、自分が得た知識や考えをまとめ、人に分かりやすく伝える工夫をする。生徒同士が発表を聞くことで、様々な職業に関する知識を得たり、考えを深められるようにする。オンラインの職場体験で、NHKの番組制作の裏側を見ることで、放送局という職業について知ったり、番組制作の裏側に関わる様々な仕事について学べるようにする。	・クロムブック、スライド機能を利用し、自分が得た知識や考えを発表することができた。また、オンライン職場体験から、テレビ番組の制作には多くの人が関わっていることを学ぶことができた。より人に伝わりやすくするための工夫や、発表から得た知識を今後更に活かすことが課題。